

電源立地地域温排水対策事業

白糠地点：海藻資源調査

(要約)

木村 大・三戸芳典・山内弘子

白糠沿岸の海藻は、マコンブ及びワカメが漁獲されている。また、海藻はウニ類やアワビの餌料となる他、魚類の産卵場や幼稚仔の生育場としての役割を果たしている。

白糠～小田野沢沿岸の海藻生育状況は平成7～9年度に詳細な調査を実施したが、海藻の生育状況は年により変動するため、その有効利用を図るためには継続した調査が必要となる。平成7～9年度の調査結果から岩礁域が卓越し、海藻生育量の多い白糠～老部及び小田野沢沿岸の海藻及び底生動物の分布状況を把握し、磯根資源の活用について検討した。

なお、詳細については、「平成10年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（東通地点）平成11年3月、青森県」として報告した。

調査結果

東通村白糠～老部及び小田野沢沖に調査線を設け水深（2.5、5、10、15、20、25 m）別に海藻及び動物を採取した。

白糠～老部沖で6線を設定したが底質が砂の地点があり、補完点として3線の調査を行った。また、小田野沢沖（3線）の岸側は砂で覆われており、水深5 m以深の調査となった。

出現した海藻は、緑藻3種、褐藻17種、紅藻30種及び海産種子植物1種の51種であった。

コンブ目植物ではマコンブ、ワカメ、チガイソ、アナメ、スジメの5種が出現し、これらの主分布水深を見るとチガイソは水深2.5 mで多く、ワカメは5 m以浅、マコンブは10 m以浅、スジメは5～15 m、アナメは25 mで多く、種により生育水深帯が異なっていた。

その他の海藻のうち生育量の多いものを水深別に見ると、褐藻類のウルシグサは水深15 m以浅に出現し、水深5～10 mの生育量が多かった。ケウルシグサは水深5 m以深で出現し、水深10 m以深の生育量が多い。

ホンダワラ類ではウガノモクが水深10 m以浅に出現し、水深2.5 mでの生育量が多く、フシスジモクも水深10 m以浅に出現し水深5～10 mでの生育量が多い。

紅藻類で生育量の多いのはカギノリで、水深2.5 mで多い。海産種子植物のスガモは水深5 mでの生育量が多かった。

出現した動物は、軟体動物16種、節足動物2種、棘皮動物12種、原索動物3種の合計33種であった。

キタムラサキウニは全水深帯に出現し、普遍的に分布していた。水深別の生殖腺指数（生殖腺重量／体重×100）は水深が浅いほど高い。海藻生育量と生殖腺指数を見ると、海藻生育量が5 kgまでは、生育量の増加に従い指数は直線的に増加するが、5 kg以上の海藻生育量があると指数は20～25で一定となった。

エゾアワビは水深10 m以浅で見られ、水深5 mでは9調査点中6点と高い出現頻度を示した。また、水深が深い海域ほど大型のエゾアワビが見られた。

漁獲サイズである9 cm以上のものは全体の21%であるが、数年で漁獲サイズになる7～8 cmのものが52%見られ、また、放流貝が21%出現した。